

北海道浮魚ニュース

平成 29 (2017) 年度 3 号

2017 年 5 月 29 日

北海道立総合研究機構水産研究本部 函館水産試験場

ホームページ : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎日本海スルメイカ北上期調査結果

5 月 20 日～ 25 日の期間、津軽海峡周辺から秋田県沖にかけての日本海で、函館水産試験場調査船金星丸 (151 トン、イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備) により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・スルメイカの分布は秋田沖から松前沖にかけての広い範囲でみられた。
- ・平均分布密度は 2001 年以降では低い値であった。
- ・魚体サイズのモードは昨年及び過去 5 年平均と同程度。

1. 水温分布 (図 1)

漁獲調査点 5 地点の表面水温は 12.6 ～ 17.2 °C (昨年 4 地点 13.9 ～ 17.0 °C)、水深 50 m の水温は 6.5 ～ 11.5 °C (昨年 4 地点 8.7 ～ 11.9 °C) の範囲にありました。

スルメイカの分布の目安となる水深 50m の水温分布は、調査海域の北側及び西側の一

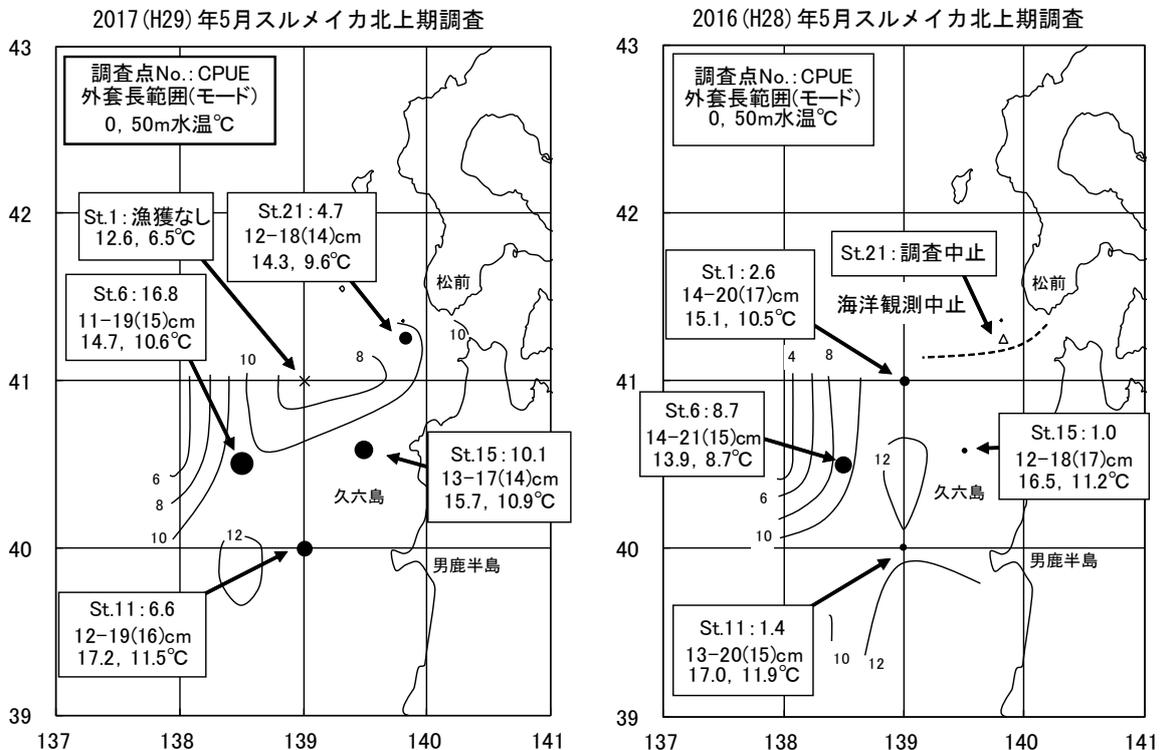


図 1 スルメイカ漁獲調査結果 (2016 年との比較)。●は漁獲調査点で大きさは CPUE に比例。
×は漁獲なし。△は漁獲調査中止。等温線は水深 50m の水温 (°C)。

部で水温 8℃を下回る海域がみられたほかは調査海域の大部分で 10 ～ 12℃の範囲にあり、昨年と同じく、水温は沖合まで高めとなっていました。

2. 分布密度 (図 1、図 2)

漁獲調査点 5 地点の CPUE (2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たり漁獲尾数) は 0 ～ 16.8 (昨年 4 地点 1.0 ～ 8.7) の範囲にありました。各調査点のうち津軽半島西方沖 St.1

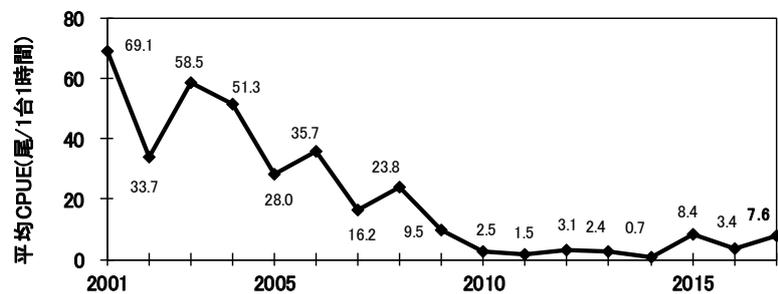


図 2 松前以南 5 地点の平均 CPUE の経年変化 (2001 年以降)

では漁獲がありませんでした。漁獲がみられた 4 調査点の CPUE は 4.7 ～ 16.8 の範囲にあり、秋田沖から松前沖にかけての広い範囲にスルメイカの分布がみられました。最も CPUE が高かったのは前年と同じ青森県久六島西方沖の St.6 (16.8) でした。松前沖 St.21 の CPUE は 4.7 で、日本海のスルメイカ北上群はすでに津軽海峡西口周辺に到達していると考えられます。

5 地点の平均 CPUE は 7.6 で前年 (4 地点平均 3.4) 及び過去 5 年の平均 (3.6) を上回りましたが、2001 年以降では低い値でした。

3. スルメイカの大きさ (図 3)

調査海域全体のスルメイカ外套長 (胴長) の範囲は 11 ～ 19cm (昨年 12 ～ 21cm) でした。最も多く漁獲されたイカの大きさ (モード) は昨年及び過去 5 年平均と同じ 15cm でした。

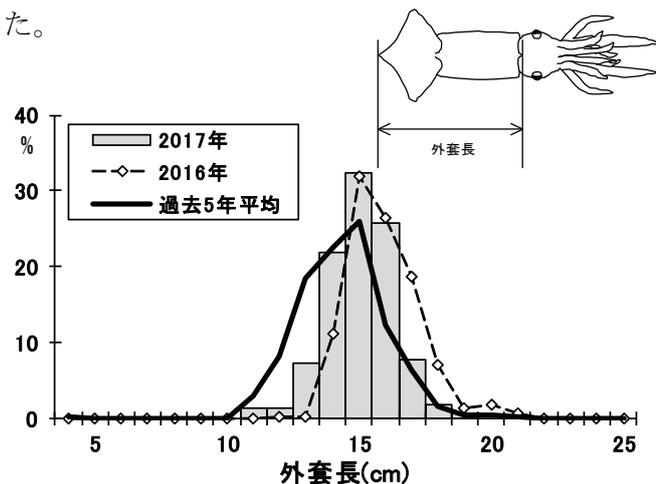


図 3 調査海域全体の外套長組成

4. 標識放流 (図 4)

調査期間中、青森県久六島西方沖

St.6、秋田県男鹿半島沖 St.11、青森県久六島近海 St.15、松前沖 St.21 の 4 点で、計 704 尾の標識放流を行いました。放流を行ったイカは、番号が黒い文字で記入されたピンク色のスパゲティ型タグがヒレの部分に打たれています。

各地点の放流日と標識番号は図 4 のとおりです。標識のついたスルメイカを再捕された方は最寄りの水産試験場まで連絡いただきますようお願いします。

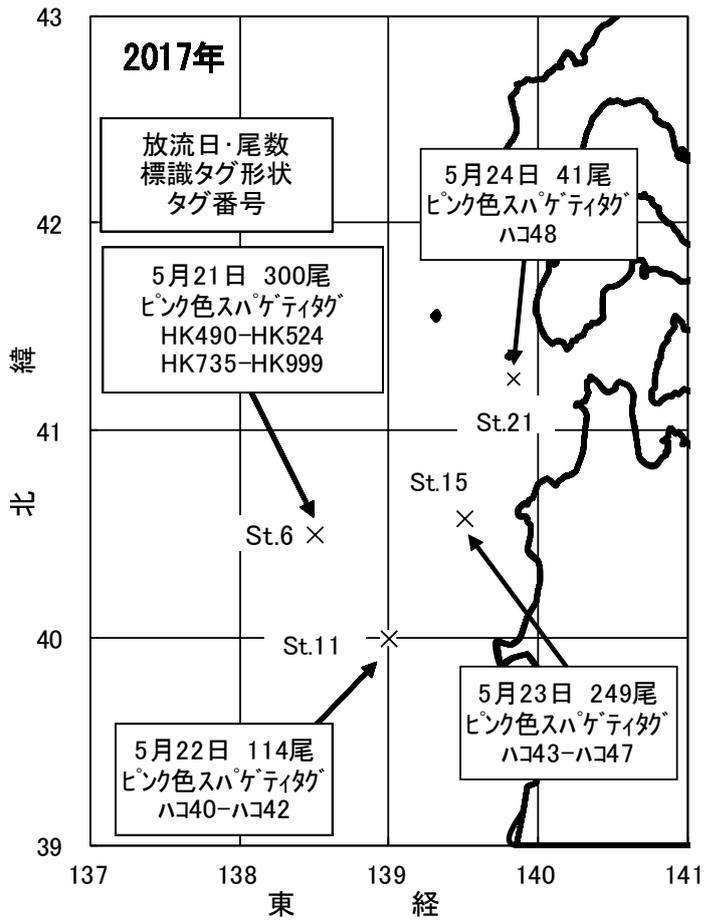


図4 標識放流の位置・放流日・尾数及び標識の形状と番号

(函館水産試験場調査研究部、TEL : 0138-83-2893、FAX : 0138-83-2849)